

7/21
参院選

市民と野党共闘の勝利 日本共産党の躍進で 希望と安心の政治を

「年金7兆円減」首相認める

「マクロ経済スライド廃止」
が最大焦点

安倍首相は22日のテレビ番組で日本共産党のマクロ経済スライド廃止提案にふれ「やめてしまっただけを保障するには7兆円の財源が必要です」と発言。

この問題をめぐって安倍首相は19日の党首討論で日本共産党の志位和夫委員長が「マクロ経済スライド」をやめ、「減らない年金」にあてる約1兆円の財源を提案。貧しい年金を、安心の年金へ変えるために政治の責任を果たすよう求めました。

それにたいし安倍首相は『ばかげた案だ』などと批判し、唐突に7兆円という数字を持ち出していました。

「減らない年金」をつくる

年金でも、報告書“なかったことに”
不都合な真実 隠すアベ政権は退場を

小池晃参院決算委員会での質問

「老後2000万円たりない」の政権追及とツイッター430万回突破。日本共産党取手市委員会ホームページトップ画面でも見られます。



沖縄の状況を熱く語る仲山氏=23日、藤代公民館

沖縄と連帯

「オール沖縄に学ぶ」講演と歌声
のつどい

一切の戦争を許さない
政治めざして

太平洋戦争末期、唯一、日本国内の一般住民が地上戦を体験した激しい地上戦で20万人超の命が失われた沖縄戦。戦没者を悼む沖縄県「慰霊の日」の23日、藤代公民館で「オール沖縄に学ぶ講演と歌声のつどい」が開かれ140名が参加しました。主催は、衆院茨城3区の市民でつくる「市民と野党をつなぐ茨城3区市民連合」です。

歌手橋本実さんの沖縄に寄せる思いの歌から始まり、沖縄革新懇代表世話人の仲山忠克弁護士が講演しました。仲山氏はオール

沖縄とは何か、オール沖縄形成前の沖縄の状況、形成と発展その要因、オール沖縄の今後について丁寧に説明、随所で熱い思いを語りました。

つどいの最後に、安倍政権を一刻も早く辞めさせ国民のいのちとくらしを守る政治、一切の戦争を許さない政治の実現を目指して、共に頑張る集会アピールを採択しました。

つどいでは、日本共産党大内くみ子参院茨城選挙区予定候補、県市民連合代表が連帯挨拶しました。

改ざん・隠ぺい・偽装、忖度政治——国会審議からも逃げ回り、消費税増税と憲法壊して戦争する国づくりにひた走る安倍政権に国民の怒りが広がっています。7月4日公示(21日投票)参院選では、市民と野党共闘の力で、安倍自公政権に退場の審判を示しましょう。

日本共産党志位和夫委員長は、21日党本部で記者会見し、安倍政治にサヨナラして明日への希望が持てる政治をつくるための、日本共産党参議院議員選挙公約を発表しました。

日本共産党の参議院議員選挙公約

1、消費税増税の中止、くらしに希望を——三つの提案

①8時間働けばふつうにくらせる社会に——賃上げと長時間労働の是正を

②くらしを支える社会保障を

「減らない年金」にする、低年金を底上げする……安心できる年金に踏み出します

③お金の心配なく、学び、子育てができる社会を

7.5兆円の財政規模——「消費税に頼らない別の道」で財源を確保します

2、「戦争する国」への歯止めなき暴走を止め、憲法を生かした平和外交を

3、原発ゼロの日本、再生可能エネルギーへの大転換を

4、異常な米軍基地の特権をただし、対等・平等・友好の日米関係をめざします

5、憲法を生かした政治に——生存権、子どもの権利、知る権利を保障します

6、日米FTA交渉の中止——食料主権、経済主権を尊重した平等互恵の経済関係を

7、中小企業と農林水産業の振興で地域経済に希望を

8、災害から国民のいのちとくらしを守ります

9、差別や分断をなくし、誰もが尊厳をもって自分らしく生きられる社会に

「財界中心」「アメリカいいなり」という自民党政権の二つのゆがみをただす立場の日本共産党が伸びてこそ、国民の願い実現の展望が開けます

国民平和
大行進2019



日本政府は核兵器禁止条約に参加を!
なくそう! 核兵器

取手・つくばみらい・守谷コース

7月8日(月)9時 藤代庁舎スタート!

取手市藤代庁舎(集会 8:40~9:00 出発)

⇒ 片町交差点 ⇒ 商店街 ⇒ 桐木 ⇒
桐木消防署駐車場(休憩 10:10 出発)

⇒ つくばみらい市内 ⇒ 守谷市内 ⇒

取手市役所(集会 14:20~15:00 出発)

⇒ 中央タウン ⇒ ふれあい道路 ⇒

取手駅西口デッキ

(集会 16:00~16:30 解散予定)



取手駅周辺の再生は

速やかな

駅東口構内のバリアフリー化、空きビル・フロアー対策

取手駅周辺活性化には、エレベーター、エスカレーターもない東口構内の早期バリアフリー化。新高層ビル建設より、安全な西口広場の整備と空きビル・フロアー対策が必要です。



JR取手駅東口

東口

千代田線にホームドア、エレベーター設置へ

市は2015年、JRに委託し行った調査により後の2017年「取手駅東口構内バリアフリールート」（4案）を公表しました。昨年12月議会で市は、4案の中の下図で進める方向性を示していました。

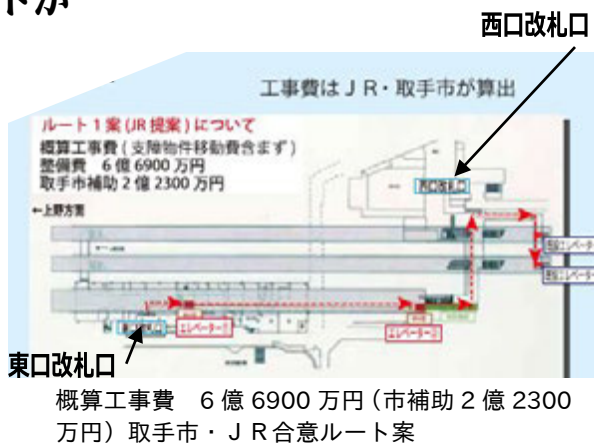
日本共産党は安全で便利なルートへの整備を繰り返し求めてきました。

安全で便利なルートがバリアフリーにふさわしい

6月議会、小池えつ子市議の質問に、改めて市は「JRの千代田線ホームドア設置計画に合わせ、エレベーターを設置することで合意し、JRが本年度設計を行う予定」と答弁しました。

合意案は、4案中一番安い費用で賄える反面、乗降客が一番少ないホームへの設置で利用頻度が少なく、移動経路が西口改札付近まで経由する長くて不便なルート。これでは、東口構内バリアフリー化の要求を満たせません。

小池市議は、安全で便利な「バリアフリーの名に恥じない整備を」と強く求めました。



西口

不透明なアトレ「アーカイブ施設計画」

取手市・藝大・アトレ（JR関連・ボックスビル運営会社）・JRの4者連携事業として取手駅アトレ（ボックスビル）4階に「アーカイブ施設」（たいけん美じゅつ場）が計画され、取手市アートギャラリー「きらり」がその一角に移転することになりました。

これまで「芸術作品展示に不敵な環境」と改善が求められてきた「きらり」は、西口開発に伴いやっと移転へ。遅すぎたとはいえ当然です。

既存商店の撤退 文化と商工振興に逆行

一方で、地域の文化振興の一翼を担い営業も順調な島村楽器店など、既存商店はアトレから撤退を余儀なくされました。

「駅周辺活性化に資する」との取手市等4者の連携協定に反し、商工振興に責任を負うべき市が、既存商店を撤退に追い込んだ責任が問われています。

日本共産党は、「きらり」の移転先は駅前空きビル・フロアーへ。また、楽器店など既存商店の存続を求めてきました。



西口デッキからのボックスビル

負担金9,500万円の積算根拠・賃借料なぜ隠す

6月議会の一般会計補正予算「きらり」の工事負担金9500万円の審査で市は、積算根拠や賃借料も示さず「アーカイブ施設計画」全容を示せとの質問にも、アトレの「プレス発表で公表」と答えるだけ。アトレを気遣い情報開示は後からとの市長の姿勢に、議会は抗議の付帯決議を付け可決。

日本共産党は、議会審議に必要な前提条件が示されないもとで負担金を含む補正予算に反対しました。



「小貝川に橋の設置を求める請願」

賛成多数で趣旨採択

6月議会に476人の署名を添えて提出された「小貝川に橋の設置を求める請願」（遠山ちえ子市議紹介）が、趣旨採択されました。（賛成16、反対7）請願は小貝川兩岸の藤代紫水高校や藤代中学校への通学、通過車で小貝川橋が混雑。警察や教師が交通整理に追われている状態解消のため上流に橋をとの切実な願いです。

討論の中で、合併前の藤代町ではマスタープランに上がっていたが取手市との合併で無くなってしまったこと。原発事故や自然災害避難時の橋の必要性等を訴える発言があいつぎました。共産党他3議員は、議会として実現に向け、より責任を負う立場から、趣旨採択ではなく、請願本案に賛成しました。

どの子も健やかに育つ子育て環境を

市民と議員で学ぶ 市政政策学習会
パート4

学習会は、5月に市議団が市内小中学校を訪問し、共産党発行の「教育改革パンフ」を示しながらの懇談で、寄せられた課題や要望等について報告。6月22日に取手中3いじめ自死「保護者会」が行われ、その後の報道もあって参加者から活発な意見が交わされました。保護者会での両親からの「あなた方は何も変わっていない！」「違法だということに誰も処分されないのか」の発言を重く受け止め、それに寄り添うことの大切さを改めて確認しました。

放課後子どもクラブの問題に



遠山議員・市議団の報告を聞く参加者
=6月24日、ゆうあいプラザ

については14クラブの現状を知らせた上で、国の通知や支援員研修資料を抜粋しながら、全クラブの課題等を報告。元支援員からも提起された子どもたちの環境づくりに努めることを確認。就学援助制度については県資料を示し、市教委の方針を伝え、更なる拡充を求めていきたいと思いますと学習会を閉じました。